

事務事業名	少年リーダー育成研修事業	事業期間	1998 ~	年度	係内番号	07
担当部署	こども部	こども課	こども係	連絡先	612	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0301	社会教育の推進		
			基本計画②	01	こども・家庭応援計画	0401	地域行事や体験活動を活用した環境の整備		
			実行計画	01	こども・家庭応援計画	0401	地域行事や体験活動を活用した環境の整備		

予算事業名	少年リーダー育成研修事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	03	事業	07
-------	---------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要  
(簡潔にわかりやすく)  
地域子ども会のリーダーとなる者を育成するために、様々な学校・学年の参加者とともに宿泊を伴う団体生活を行うことにより、自主性・創造性・協調性・指導力などを培う研修を行い、子ども達自らの手による地域子ども会活動の充実を図る。

現状と背景  
(どうして)  
多様化、複雑化する社会の中で、子どもをとりまく環境はめまぐるしく変化している。また、自然災害等がいつでも起こるか分からない状況の中、初めて遭遇する様々な場面でも、自分の課題を見つけ、あらゆる場面に対応し、『社会を生き抜く力』を持った子ども達の育成が求められている。

目的  
対象  
受益者  
(誰のために)  
市内の小学5・6年生・中学生1年生、CLC、茅子連

対象  
対象  
(直接働きかける)  
市内の小学5・6年生・中学生1年生、CLC、茅子連

意図  
(どんな状態にしたいか)  
多様な経験を積み、自主性や豊かな表現力などの『社会を生き抜く力』を持った「地域子ども会」のリーダーを養成する。

手段・方法  
(どうやって)  
事前研修の開催  
本番研修の開催

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	少年リーダー研修参加人数の増加	参加人数	人	リーダースクラブ中高生を除く
	2					
	3					

変更履歴

評価指標の作成	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	少年リーダー育成研修後のリーダースクラブ加入者数の増	加入者数	人	新規加入者数
	2					

変更履歴

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	178,689	230,000	
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	100,000	200,000			
	一般財源	円	78,689	30,000			
活動指標	参加人数	目標	人	50	50		
		実績	人	43			
		達成率	%	86.00	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
成果指標	加入者数	目標	人	5	5		
		実績	人	0			
		達成率	%	0.00	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
備考							

事務事業名	少年リーダー育成研修事業		事業期間	1998 ~	年度	係内番号	07
担当部署	こども部	こども課	こども係		連絡先	612	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果 要因分析	研修2日目とイングリッシュキャンプ(学校教育課主催)が重なり、H29年度の参加者65名からH30年度の参加者53名へと減少し、この内学校推薦の参加者は、27名から10名へと減少した。 このことが要因となり研修後のリーダースクラブ加入者数は0であった。				
	総合評価 課題	研修会の企画・運営は、リーダースクラブ会員により行われ、子ども会リーダーの手本として機能している。参加者は『社会を生き抜く力』を持った「地域子ども会」のリーダーとなる実体験ができた。  参加者の内学校推薦人数の減少。 スタッフであるリーダースクラブの高校生から中学生への技術の継承。				
	改革・改善の方向性(ACIT)の 内容 策 び 容 	学校推薦の参加者の増加に向けた取り組みと、リーダースクラブ会員の確保が必要である。そのために校長会への依頼を行い参加者を募る。 また、リーダースクラブ会員の資質の向上のため、定例会や独自企画に合わせOB・OGによる研修を実施する。				
改革・改善の方向性(ACIT)の 内容 策 び 容 	成果 コスト	現状維持  現状維持				

作成担当者	小林拓斗				
最終評価責任者	五味健志				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	山と海きずなをつなぐプロジェクト推進事業	事業期間	2011 ~	年度	係内番号	11
担当部署	こども部	こども課	こども係	連絡先	612	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	低
			基本計画①	01	教育大綱	0202	子どもたちの豊かな心を育む		
			基本計画②	01	こども・家庭応援計画	0401	地域行事や体験活動を活用した環境の整備		
			実行計画	01	こども・家庭応援計画	0401	地域行事や体験活動を活用した環境の整備		

予算事業名	山と海きずなをつなぐプロジェクト推進事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	03	事業	13
-------	-----------------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要  
 (簡潔にわかりやすく)  
 東日本大震災時に旭市へ義援金の送ったことがきっかけで、旭市PTAから茅野市の児童が招待される形で事業がスタートした。その後、茅野市と旭市の児童が相互に隔年で訪問し、様々な交流、それぞれの郷土文化や歴史の学び、体験活動を通して、姉妹都市としての相互理解と友好親善を図り、豊かな人間性や社会性を養うことで、21世紀を担う視野の広い人材を育成する。また、自分達が住んでいる郷土「茅野市」や住んでいる地区について知識を深めることで、郷土愛や地域のつながりを確認する。

現状と背景  
 (どうして)  
 震災をきっかけに「きずな」の大切さが確認された。姉妹都市である「茅野市」と「旭市」の児童が、人と人はつながって生きていることを知り、互いの文化（山と海、それぞれの郷土のめぐみ）に触れ合うことで、生きる力、豊かな人間性を育むきっかけづくりを提供する必要があるため。

目的  
 受益者 (誰のために)  
 訪問時：小学6年生30名  
 受け入れ時：少年リーダー育成研修参加者  
 対象 (直接働きかける)  
 同上

意図 (どんな状態にしたいか)  
 体験活動等を通じた交流や茅野市の紹介をすることで知識向上及び豊かな人間性を育みたい。また、小小・小中連携を推進するため、旭市訪問時に同じ中学校区内の複数の小学校6年生を参加対象とすることで他校の友人づくりができ、中学校入学時のギャップ解消にも寄与できる。

手段・方法 (どうやって)  
 両教育委員会で実施検討し、旭市へ訪問する際には参加校を選考し募集する。参加児童同志がこの事業を通じて交流を深める。旭市の児童に自分達が住んでいる郷土を紹介するため、「茅野市」についての知識を深め、発表資料の作成を行う。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	茅野市の紹介準備	茅野市の紹介準備	回	訪問時：参加児童が学習の一環として準備 受入時：CLCメンバーが定例会にて準備	2
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	1	茅野市についての知識を深める	発表回数	回	訪問時：参加児童の学習成果として 受入時：参加者の学習の一環として	1	
	2	報告書の作成	報告書作成 (旭市訪問時のみ)	回	旭市訪問時のみ (隔年)	1	

実況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	財源内訳	事業費等(a)	円	96,436	719,000			
国庫支出金		円						
県支出金		円						
地方債		円						
その他特定財源		円		90,000				
活動指標	茅野市の紹介準備	目標	回	2	2			
		実績	回	2				
		達成率	%	100.00	-	-	-	
	-	目標	回					
		実績	回					
		達成率	%					
	-	目標	回					
		実績	回					
		達成率	%					
	成果指標	発表回数	目標	回	1			
			実績	回	1			
			達成率	%	100.00	-	-	-
報告書作成 (旭市訪問時のみ)	目標	回		1		1		
	実績	回						
	達成率	%						
備考								

事務事業名	山と海きずなをつなぐプロジェクト推進事業	事業期間	2011 ~	年度		係内番号	11
担当部署	こども部	こども課	こども係			連絡先	612

事業 評価 価値	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
	課長評価日					

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果 要因 分析	リーダー育成研修時に茅野市・旭市の児童が市の概要・特徴を互いに発表でき、理解が深まった。				
	総合評価	CLCメンバーが茅野市の紹介を自ら作成し発表することができた。また、各種レクの実施により両市児童の交流が深められ、姉妹都市としての意識も向上した。				
	課題	活動・成果に係る課題は特段ないが、キャンプファイア時に熱中症になった旭市児童がいた。水分補給等に心がけ予防に努めていたが、次回は発生防止に向けた方策(雷発生時の対応も含めて)を旭市担当者と検討する必要がある。				
	改革・改善の方向性(ACIT)の内容及び	現状維持 現状維持				
改革・改善の方向性(ACIT)の内容及び	成果 コスト 方向性 内容 策	H28年度の行政評価2次評価委員会において、一部の児童のみが参加する事業であり、また、引率教諭の負担もあることから、廃止の検討をするよう指示があったが、その後、旭市との児童に係る交流は当事業のみであることから、理事者協議の結果、参加小学校が一巡する2021年度まで事業継続することとした。(参考:2019年度湖東・北山小、2021年度宮川・豊平小) なお、2019年度は旭市へ訪問するため、バス借り上げ料等が発生しコスト拡大となる。				

作成担当者	宮下 孝				
最終評価責任者	五味健志				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	子ども会育成会支援事業	事業期間	1994 ~	年度	係内番号	05
担当部署	こども部	こども課	こども係	連絡先	612	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0103	地域が支える子育て環境の充実		
			基本計画②	01	こども・家庭応援計画	0401	地域行事や体験活動を活用した環境の整備		
			実行計画	01	こども・家庭応援計画	0401	地域行事や体験活動を活用した環境の整備		

予算事業名	子ども会育成会支援事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	03	事業	05
-------	--------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

**事務事業の概要**  
 (簡潔にわかりやすく)  
 子ども会育成会は、市全体では「茅野市子ども会育成連絡協議会」、10地区に「地区子ども会育成会」、区・自治会単位で90の「単子子ども会育成会」があり、それぞれ特色ある活動をおして子どもの体験機会の充実を図っている。この活動の継続、発展のために「茅野市子ども会育成連絡協議会」への活動費補助、活動が停滞している子ども会活動を活性化するため新たな取組を企画する地区・単子子ども会育成会にモデル事業として補助金の交付をしている。

**現状と背景**  
 (どうして)  
 子どもは地域社会で様々な体験や経験を積み豊かに成長をするが、少子化による地域行事等の減少から体験や経験を積む機会の減少が懸念されている。また、行事開催時に子どもの参加を促すだけでなく、子どもの視点や声を活かした行事とすることで、子どもの行事参加後の達成感、大人に認められる充実感を得られるような地域行事の開催が望まれる。

**目的**  
 受益者 (誰のために)  
 地区の子ども  
 対象 (直接働きかける)  
 茅野市子ども会育成連絡協議会と新たな取組を企画する地区・単子子ども会育成会  
 意図 (どんな状態にしたいか)  
 「子どもが主役の子ども会」を目指し、子ども会活動を子どもたちが自ら企画・運営できるようにする。

**手段・方法**  
 (どうやって)  
 子ども会育成連絡協議会への活動費支援  
 モデル事業実施による育成会、地区・単子子ども会育成会への支援

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	情報紙の発行	発行回数	回	概ね4ヶ月に1回	3
		2	モデル事業のPR	モデル事業のPR	回	年間で全体研修会にて1回、情報誌にて3回	4
		3					
		変更履歴					

評価指標の作成	成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	リーダーズクラブ員の増加	クラブ員数	人	各地区に8人(養成コース、ジュニアリーダー、CLCの合計)	80
		2	モデル事業を実施する育成会の継続	各地区育成会モデル事業の実施数の増	団体	モデル事業実施団体数(どんぐりプラン目標指標に掲載)	20
		変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	1,876,900	1,970,000	
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	1,876,900	1,970,000			
活動指標	発行回数	目標	回	3	3		
		実績	回	3			
		達成率	%	100.00	-	-	-
	モデル事業のPR	目標	回	4	4		
		実績	回	3			
		達成率	%	75.00	-	-	-
-	目標	-					
	実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	
成果指標	クラブ員数	目標	人	80	80		
		実績	人	69			
		達成率	%	86.25	-	-	-
	各地区育成会モデル事業の実施数の増	目標	団体	20	20		
		実績	団体	16			
		達成率	%	80.00	-	-	-
備考							

事務事業名	子ども会育成会支援事業	事業期間	1994 ~	年度	係内番号	05
担当部署	こども部	こども課	こども係	連絡先	612	

項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
中 評 価	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化				
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)				
	翌年度方向性				
	成果				
	コスト				
	課長評価日				

項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事後 評 価 ( C H E C K )	<p>～成果変果動指要標因分～析</p> <p>情報紙の発行やモデル事業のPRによって、モデル事業を実施する育成会数は目標値の80%となった。リーダースクラブ員については、各学校へのPRや希望した単位子ども会育成会への出前講座により、目標値の86%となった。</p>				
	<p>成果</p> <p>リーダースクラブの会員及びモデル事業を実施した単位子ども会育成会の子どもは、自らの行事の企画・運営できるようになってきている。</p>				
	<p>課題</p> <p>モデル事業や子ども会育成会の理念などが、地区・単位子ども会育成会に浸透しにくい。リーダースクラブ会員の技術の継承が難しい。また、小学生で加入しても、中学、高校と継続する会員が減っている。</p>				
改革・改善の方向性(ACIT)	<p>翌年度方向性</p> <p>成果</p> <p>現状維持</p> <p>コスト</p> <p>現状維持</p>				
	<p>改革の方向性の内容</p> <p>引き続き、市子ども会育成会と地区・単位子ども会育成会との連携に向けて、研修会等を通じて理念やモデル事業等を紹介し育成会活動を支援する。また、ち一ぼの着ぐるみによるPRを進めていく。リーダースクラブ会員の資質の向上のため、丁寧なサポート体制を継続していく。</p>				

作成担当者	小林拓斗				
最終評価責任者	五味健志				
最終評価年月日	2019年5月17日				